

会派 こうふ未来 設立趣旨

甲府市は 2019 年 4 月 1 日より中核市に移行し、市民福祉向上のために 2,500 以上の権限が移譲された。二元代表制の地方自治制度の下、執行機関への政策的提言及び議会内における会派間、議員間との議論を活発にして、本市の自治体経営を持続可能にしていくために行動しなくてはならない。

少子高齢化を伴った人口減少の中、本市の自治体経営は難局に立ち向かわなければならない時期となっている。甲府市がこれからも住民にとって「住み続けたいと思えるまち」となり、さらなる住民福祉の向上を目指していくためには、かつての右肩上がりでの経済成長していた「あれも、これも、何でもできた」時代の従来型価値判断から、今後を生き抜くために均衡ある負担配分を意識した未来志向型の政策的価値判断が求められている。

このような思いの下、私たちは政策的議論を通じて、中核市にふさわしい議会づくりを目指し、会派「こうふ未来」をここに設立する。

2019（令和元）年 5 月 1 日

代表 廣瀬 集一
神山 玄太
藤原 伸一郎
川崎 靖

綱領

1. 私たちは、市民の福祉向上を目指し、生活の安定、安全を確立するために、地方自治の本旨を尊重した議会運営を切磋琢磨し支え、行動する。
1. 私たちは、自律した自治のあり方を見据え、住民の参画と協働をより確固たるものとするために、行動する。
1. 私たちは、住民自治の考え方に則り、常に住民の意思を尊重し、議会における意思決定に反映させるために、行動する。
1. 私たちは、中核市にふさわしい議会づくりのために、行動する。